



PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

3 & 4 週目

「生の初めの1ヶ月を終えたときのあなたの大きさはリンゴの種ぐらい、つまり1/6から1/4インチの長さでした。3週目には心臓が鼓動し始め、それで残りの人生の「生命のリズム」が定められました。脳も形成され始め、すぐに、体中に衝動を送り出すようになりました。第24日にはあなたはまだ腕も脚もないのが、突然その2日後に小さな腕の芽が現れ、そして更に2日足らずで脚が芽を出しました！

たった4週間でああなたはすっかり小さな赤ん坊のように見えるようになり、さらにはそのように反応さえし始めました。」

第3週目の末までには、背骨・脊柱・神経系などが形成されます。背骨の急速な成長により体は、折りたたまれ、その軸の回りに

カールする格好になります。内部ではすべての器官体系の基礎ができつつあり、簡単な腎臓・肝臓・消化管などは既に形となっています。

第4週目の末までには、生後1ヶ月目の胎児は受精卵の1万倍の大きさになっています。

この新しい個体は、独立した生物学的工場といえます。各細胞に分けられた主遺伝情報が、それぞれ特殊化された組織や器官のある不変的な一定の順序によって系統化するにあたって指令を出します。細胞のこの完璧な秩序・組織化・協調性は、まだ十分に解明されていませんが、実に驚異的に映ります。全く、我々は敬に、そして不可思議に作られるのです。すべての才能を備えた1人の人間が始める小さな工場を想像してごらんなさい。最初の従業員達は彼自身から仕事を学び、工

場が成長すると部門の頭となつて、それぞれが自分の担当の仕事を整えてゆきます。そうやってあらゆる方面に専門の労働者が育ち、自分の狭い分野だけではあつても、今度は彼ら自身が新しい従業員を育ててゆくのです。

(ジョージ・W・コーナ博士)

目と心

確かに、性行為は人間のする行為です。けれども、子どもが宿るといふ神秘的な出来事、それは神様の御計画であり、神様のされるみ業で、人間が入れない所、また、入り込んではいけない分野だと思つて下さい。どんな状況での性行為の結果であれ、神様がかけがえない命、貴い命を大事に育もうとれているのを人間が勝手に中断させてもいいたくないでしょうか。

以前、私は墮胎のシーンをレントゲンフィルムを通して見たことがあります。その小さな命は、自分のもとに近づく手術の道具から、一生懸命逃げようとしているのです。「僕はいきたくないんだ！」と叫ぶように・・・そんな声にならない声を。心にならない心を無視し尊重しな

くてもいいのでしょつか。決して生まれてくる子どもは幸福だとはいえないかもしれない。私は施設で生活している子ども達と接してきましたが、必ずしも幸福だとは言いきれません。でも、逆に心から不幸だともいえないのです。もしかしたら我々人間が勝手にその子ども達に「不幸」というレッテルを貼ってしまったているのかもしれない。神様から見たら、そつでないかもしれないのに・・・そこで、日本でも里親や養子縁組制度に対する理解が深まり、子ども達を受け入れ、家族の愛の中で大事に育ててくれる家族が増えることを心から願っています。

「神様の目」「神様の心」を持つての見つめ方と、人間の見つめ方とは随分違っているんじゃないかなと感じます。これからも私は、「この「小さな命」について」「神様の目」「神様の

心で見つめていけたらと思っています。

オブレート会
八木信彦



その子供に...

「心暖まる話」

六年前、八月のある日の新聞に大変心暖まる話が出ていました。七ヶ月の赤ちゃんが百万人に一人という珍しい病気で死にかかっていました。その命を救うためには、同じ血液型の人から骨髄をもらわなければなりません。ラジオでお母さんは事情を説明し、骨髄を提供してくださいよう聴取者に呼びかけ、「この子に生きる機会を与えてください」と訴えました。

「呼びかけに答えて」

骨髄提供の手術はひどい苦痛を伴うので、提供に応じる人は少ないのではないかと病気側は思っていました。驚いたことに

二日間で二二九人がそのために病気を訪れました。その中から二十二才のお嬢さんが選ばれ、腰骨から骨髄を取って赤ちゃんに移植されました。

しかし残念ながら赤ちゃんはそのお嬢さんの骨髄をいただいても命は助かりませんでした。お母さんの「この子に生きる機会を与えてください」という呼びかけに大勢の人々が助けに来たことは、ほんとうに私たちの心を暖めます。幸いにこのような話は時々新聞に出ます。しかし、このようない記事を読むたびに私は矛盾を感じ変な気持ちになるので。

「生きる権利」

大勢の方が病気になつた赤ちゃんの命を心配するの、どうして毎年人工中絶によって何百万人もの子供が殺されていると

いう事実には関心がないのかと思うからです。生まれたばかりの子供の命を大事にすることは嬉しいことですが、生まれ出る前の子供の命をあまり大事にしないことは、現代社会の大きな欠陥だと思えます。もし子供をおろすことを考えている方がおられたら、その方に、このお母さんが訴えられたことをお伝えしたいと思えます。「その子に生きる機会を与えてください」その子供はあなたや私と同じように人間として生きる権利があるのです。

ハヤット神父

「正当な中絶は安全な中絶」

道理にあつた言葉に聞こえるだろう。しかし、認可された医師が中絶手術をするという事実は、安全を保証しない。最高の状態のもとでさえも、中絶をする少女や女性に対する肉体的、感情的危険は存在する。どんな正当な中絶でも、その少女や女性の肉体的、感情的な健康状態に対する非常に現実的で重大な危険を伴う。結局、正当な中絶は、生命を絶たれる胎児にとつては「安全な」中絶ではあり得ないということが注目されるべきである。

自然な家族計画

自然な家族計画 (Natural

Family Planning (NFP))

とは、子供を作るためにも、そして妊娠を回避するためにも使われる家族計画です。この方法を実行するにあたって基本となるのは、当事者であるところの自然生理のリズム、「妊娠しやすい時期と妊娠しにくい時期の周期」について十分な知識をもつことです。自然な家族計画は避妊の手段ではありません。それは本来の、家族計画の手段なのです。自然な家族計画によって男性も女性もおののの生殖についての可能性を十分に表現する事ができます。健康な生殖機能を持つ夫婦が妊娠を成功させるために、あるいは妊娠を避けるためにも効果的な手段です。さらに、この方法を実行することによって、過去に子供

のできなかつた夫婦が子供を作るのにも役立ちます。

子供を作れる可能性(受胎可能性)を、感謝する心こそ、自然な家族計画の基本精神です。それは、夫婦がお互いの生殖機能について価値を認めあい、尊敬しあい、そして理解しあえることです。自分達の子供を作れる可能性への理解と尊敬が深まることによつて、夫婦間の愛や尊敬念がより強固となつていく、と多くの夫婦が証言しています。神からの素晴らしい贈り物であるところの生殖機能を正常で健康な体の機能として受け入れることです。まさに、神が人間に与えて下さつたこの贈物は愛され、尊ばれ、十分に理解され、そして賢明に使われるべきものなのです。

排卵法

自然な家族計画、つまり排卵法はユニークで、かつ現在あるところの自然の摂理に従つた方法の中ではもっとも最近のものです。排卵法では、人間の生殖に欠かすことのできないサイン、子宮頸粘液の排出を観察することに全てがはじまります。女性が妊娠可能な状態にあるときは、必ず、女性器の入口に明らかかな兆候として子宮頸粘液がたしかめられる、という事実のもとにこの方法が生まれました。

排卵の時期が近付くと、この液に大きな変化がみられるので排卵について簡単に推測することができるとです。

もっとも妊娠しやすい時期がくると、子宮から粘液が出され、その量はどんどん増えていきます。一番妊娠の可能性の高い日と、

それに続く3日間液の量が最大になります。逆に、妊娠しにくい時期には子宮からの粘液が観察されないことで判別できます。生理のサイクルにかかわらずに、常に粘液の排出がみられる女性もいます。この判定法は、そういう方にも適宜応用できます。

しかしながら、大切なことは、この方法が経験豊かな自然な家族計画の教師を通じて正しいやり方であればということに他なりません。自然な家族計画の指導とは、夫婦に子供を作る能力(受胎能力)について教えることです。このことは、自然な家族計画の専門家達が発展させ、動かしている一連のプログラムの中で実践されているのです。

排卵法には数々の利点があります！

1・医学的な見地から、安

全な方法です。

2・信頼できる確実な方法です。排卵法の研究が

明らかにするところを

みれば、正しく使用され

た場合、99・6%もの

確率で避妊が成功する

ことがわかっています。

3・道徳的に正しい方法

です。

4・方法を簡単にマス

ターできます。

5・お金がかかりません。

6・応用範囲が非常に広

い。排卵法は、女性の生

理の周期中の全ての時

期に適用されます。

7・妊娠しやすい時期と

妊娠しにくい時期につ

いて正確に知ることが

できます。

8・子供ができない夫婦

にとつてもとても役立

ちます。

家族計画の理想の姿

以上述べてきた数々の
利点に加えて次のような

ことがらが家族計画の理

想形をつくります。

A・わかちあう責任

避妊薬を使用するのと

違って、排卵法は女性と男

性に同じだけの責任を要

求します。こうして夫婦は

おのおのの生殖機能とい

うものが一つに結ばれて

いることを悟るのです。

B・家族計画の
本質的方法

子供をつくるときにも、

妊娠を避けたい時にも使

えるこの排卵法こそ、家族

計画の本質ともいえる手

段なのです。

C・お互いの
「性」の高まり

本当の「性」とは、精神

的であったり、肉体的で

あったり、そして知的で、

創造的、かつ感情に左右さ

れやすい、といったいろい

ろな面を持つことを、夫婦

は学びます。自然な家族計

画を取り入れることによ

り、夫婦間の「性」によい
バランスがつけられてい

きます。

D・愛ある協力

「性」や家族計画といっ

た大切なことがらについ

て、この方法を使用すれ

ば、さらに深い、愛ある協

力関係が育まれていきま

す。実際に自然な家族計画

を実行している夫婦は、証

言します。結婚という枠の

中で二人の関係をより良

きものへと発展させてい

くには、周期的に性的接触

をひかえることが大切で

ある、と。

その効果

排卵法は、それが資格あ

る教師によつて適切に指

導され、正しく実践された

場合、99%以上の確率で避

妊が成功します。さらに、

子供をつくりたいときに

も、妊娠しやすい時期をみ

きわめることにより、この

方法では極めて効果的で

す。不妊で悩んでいる夫婦
にとっては、排卵法はその

実態の把握と治療に不可
欠な役割を果たします。

CNPEE医学博士

トーマス・W・ヒルカー著

人間生命の

誕生を研究する

パウロ六世協会監修

静かなる水口コースト

定価 ¥ 850

著者 ジョン・パウエル

発行所 女子パウロ会

アメリカでは毎日、四千

人以上の小さな生命が墮

胎によって闇にほうむら

れている。この数は年々増

え続けている。この悲しむ

べき現状はわが国でも同

様である。墮胎、この行為

は、胎児を殺すことにとど

まらない。現代社会、種々

の現象として現れている

生命軽視の風潮は、墮胎を

正当化する考えがひきお

こしたものといえよう。著

者の体験をとおして描か

れた生命と愛の感動の書。



人間の価値より偉大なものは
ありません。人間の生命は
大切です。それは神からの
贈り物であり、神の愛は
永遠だからです。

ヨハネ・パウロ二世